

事務職員会 ニュース

Administrative Staff Association News

Vol.

1

July, 2026

(通巻8号)

千葉県
公立高等学校
事務職員会

学校現場の “今”を支える

～研修会並びに定期総会～

CONTENTS

01 教育委員会主催研修会

- －就学支援金制度並びに財務研修
- －就学奨励費とスクールバスについて

02 事務職員会研究部による発表

03 特別講演「笑顔を増やす魔法の言葉がけ～PEP TALK」

04 定期総会

学校現場の “今”を支える

令和8年5月13日(水)、千葉県教育会館において「令和8年度 研修会並びに定期総会」が開催されました。

当日は、多くの会員が一堂に会し、制度改正への対応や財務事務、研究発表、特別講演、定期総会など、幅広い内容について学びを深めました。

制度や学校を取り巻く環境は少しずつ変化し、それに伴い学校事務職員に求められる役割も広がりを見せています。

日々の業務の中で積み重ねている一つひとつの仕事が、学校を支える大切な力です。

研修会や定期総会で生まれた学びや気づき、その場で交わされた言葉の数々を、**振り返ります。**



教育委員会主催研修会

「就学支援金制度並びに財務研修」

就学支援金制度や財務事務に関するさまざまな内容について研修が行われました。講師として、財務課会計指導班榎戸班長が登壇し、制度改正や実務上の留意点について理解を深める説明でした。

○就学支援金制度研修について

今回の研修では、就学支援金制度の基本的な仕組みに加え、所得要件の撤廃、国籍・在留資格等に基づく支給要件の確認、申請・認定手続き、授業料徴収との関係など、各校の事務処理に関わる内容を確認しました。

特に、令和8年度からは保護者等の収入状況を問わない制度となる一方で、国籍や在留資格等の確認が必要となるため、申請書類や確認方法について、これまで以上に丁寧な対応が必要であると感じました。

○財務研修について

財務研修では、学校における財務事務の適正な処理について説明がありました。

内容としては、会計検査や定期監査の結果を踏まえ、日々の業務で注意すべき事項を確認するものでした。

職員による立替払い、支出負担行為伝票の事後起票、支払遅延、予算の裏付けがない契約、個人情

報の不適切な取扱いなど、実際に指摘事項となった事例が取り上げられ、財務事務を進める上で、手続きの順序や確認事項を改めて整理する機会となりました。

特に、事業の実施や物品の購入を進める前に、予算の有無、執行方法、決裁の状況を確認することの重要性が説明されました。見積依頼、支出負担行為、正式発注、納品・履行確認、支出命令といった一連の流れには、それぞれ意味があり、手続きが前後したり、事後処理になったりすることで、会計事故や監査上の指摘につながるおそれがあるとのことでした。

また、教職員間で事業内容や購入予定の話が先に進み、事務室に相談が届いた時点で、すでに手続き上の整理が難しくなっている場合があることにも触れられました。

そのため、学校内で早い段階から情報を共有し、予算の裏付けや必要な手続きを確認することが重要であるという説明がありました。

今回の研修では、財務事務を進める際の基本的な流れや、確認すべきポイントを具体的に確認し、資料やチェックリストを活用しながら、日々の処理を見直すきっかけとなりました。



「確認」できていますか？

財務課財務助成班 山本主事による「就学奨励費とスクールバスについて」の説明は、特別支援学校に勤務する職員を対象に、ホールとは別室の会議室で行われました。

内容は、スクールバス運行業務委託を中心とした事務手続きに関するもので、入札スケジュールや公告掲載時の留意点、様式改正への対応など、実務に直結する内容が示されました。

会場では、資料を確認しながら熱心にメモを取る姿が多く見られ、説明が進むにつれてページをめくる音が静かに響いていました。

日々の業務で実際に関わる内容だからこそ、参加者の視線も自然と

「就学奨励費とスクールバスについて」 教育委員会主催研修会

資料へ向かいます。画面に映し出された具体的な事例や留意点に、改めて確認しながら聞き入る様子も印象的でした。

日々の業務では、慣れた手続きほど前年度の資料や様式をそのまま使用してしまうことがあります。

しかし、様式の見直しや公告方法の変更など、小さな変更点が後の事務処理に影響することも少なくありません。

一つひとつの確認は小さな作業に見えても、その積み重ねが適切な事務処理につながります。日常業務を改めて見つめ直し、基本を丁寧に積み重ねることの大切さを実感しました。

事務職員会 研究部による発表

「事務提要(参考資料集)」について

自信をもって仕事をするために

～参考資料集を**フル活用**するススメ～



発表者

沼南高校	加納事務長(左)
印旛明誠高校	根本副主査(中央)
東葛の森特支	狩野主事(右)

研究部長の加納事務長(沼南高)を中心に、根本副主査(印旛明誠高)、狩野主事(東葛の森特支)の3名による発表が行われました。

長年受け継がれてきた「事務提要(参考資料集)」の歩みを振り返りながら、これからの研究活動のあり方や資料活用の方法について紹介。

“現場で本当に役立つもの”を次の世代へつないでいこうとする思いが伝わる発表でした。

発表内容まとめ

70YEARS



昭和30年度に始まった事務提要。長年積み重ねられてきた資料や知識が、今の学校現場を支えています。

NEW!!



事務提要委員会から研究部へ。幅広いメンバーが集まり、新たな形で研究活動がスタート。

NEXT...



参考資料集の作成・更新には、現場の知識や経験を次の世代へ受け継ぐ役割も込められています。

6月19日(金)開催「第78回関東高等学校事務職員研究大会」にて千葉県を代表し発表を行いました。その模様は次号(Vol.2)にてお届けします。

特別講演

「笑顔を増やす 魔法の言葉かけ ～PEP TALK!～」

講師

日本ペップトーク普及協会

神山 智代 氏

日本ペップトーク普及協会認定講師の神山 智代氏を講師に迎え、「笑顔を増やす魔法の言葉かけ～PEP TALK!～」をテーマに特別講演が行われました。

ペップトークとは、もともとスポーツの世界で、試合前などに監督やコーチ、リーダーが選手の背中を押すために行う短い激励の声かけのことです。

講演では、言葉には人の気持ちを動かす力があり、日々の何気ない一言が、相手を前向きにすることもあれば、反対に意欲を下げてしまうこともあると紹介されました。

前向きな言葉が、心を整える

ペップトークの特徴は、「短く、分かりやすく、肯定的な言葉でその気にさせる」ことです。一方で、長く分かりにくく、マイナスの言葉で相手のやる気をなくしてしまう声かけは「プペットーク」として紹介され、普段の言葉選びを見直すきっかけとなりました。

印象的だったのは、ペップトークが単なるほめ言葉ではないという点です。事実を無理に変えるのではなく、受け止め方や伝え方を工夫することで、相手が前を向きやすくなる言葉に整えていく。その考え方は、学校現場でのコミュニケーションにもつながります。

学校現場にも生きる声かけ

学校事務職員は、教職員、生徒、保護者、外部の方など、多くの人と関わります。窓口対応や電話、相談、説明など、言葉を使う場面は日常の中に数多くあります。

講演では、悪意のない一言でも相手を傷つけてしまうことがあると示され、正確に伝えるだけでなく、相手の受け止め方にも配慮する大切さを学びました。

支える立場にある私たちにとって、安心感のある言葉を選ぶことは、信頼関係を築くうえでも欠かせない視点です。

自分にも向きたいペップトーク

ペップトークは、相手を励ますだけでなく、自分自身を支える言葉としても活用できます。忙しさや不安、失敗を感じたときに、自分を責めるのではなく、「今できることをしよう」「ここから整えていこう」と声をかけることは、気持ちを立て直す力になります。

今回の講演は、日々の小さな言葉が、人との関係や自分自身の心に与える影響について考える貴重な機会となりました。学校という場を少し明るくするために、前向きな言葉を大切にしていきたいと感じる内容でした。

令和8年度

定期 総会

県教育会館
大ホール



佐藤前会長から高久様に感謝状が贈呈されました。

静かな拍手の、その奥に。

研修・講演会が終わり、令和8年度定期総会が開催されました。

会場では、来賓の方々から御挨拶をいただいた後、退職者表彰、25年勤続者表彰などが行われました。議事の前に設けられた表彰の時間は、長年にわたり 学校現場を支えてこられた方々の歩みに触れる、印象深いひとときとなりました。

退職者表彰

「学校を支える根」という言葉

退職者表彰では、退職者12名を代表して長きにわたり学校事務に携わってこられた元安房拓心高等学校事務長 高久 洋子 様へ感謝状が贈呈されました。

御挨拶では、これまで多くの方々を支えられ、事務職員会の活動にも助けられながら勤務されてきたことへの感謝が述べられました。

特に印象に残ったのは、かつて校長先生から贈られたという「学校を木に例えるなら、事務職員はその木を支える大事な根」という言葉です。普段は大きく取り上げられることの少ない学校事務の仕事が、学校を足元から支えていることを感じさせる一言でした。

高久様の穏やかな語り口から、長年積み重ねてこられた経験と、学校事務への深い思いが伝わってきました。

25年勤続者表彰

「25年の歩み」に寄せられた拍手

長年にわたり学校教育に携わってこられた方々に対し表彰が行われました。

受賞者からは、これまで支えてくださった方々への感謝や、今後も経験を生かして学校現場に貢献していきたいという思いが述べられました。

長く勤務を続けてこられた方の言葉には、資料だけでは伝わらない重みがあります。会場は25年の歩みに敬意と感謝を込めた拍手に包まれました。

退職者表彰

安房拓心高校

事務長 高久 洋子 様

ほか11名の皆様

25年勤続者表彰

流山おおたかの森高校

副主査 蛭原 蘭子 様

柏特別支援学校

事務長 内藤 孝行 様

栄特別支援学校

主事 柴田 美恵子 様



新年度へ、 歩みをつなぐ

議事では、事業報告や決算報告、事業計画案、予算案、役員選出などについて審議が行われました。

第1号議案では、令和7年度の実業報告について説明。定期総会をはじめ、新規採用職員研修会、コンピュータ研修会、事務職員会全体研修会、関東・全国の研究大会への参加など、年間を通じた活動内容が報告されました。また、事務局、研修部、研究部、情報厚生部など、各部局における取組や、各支部で行われた研修会・情報交換についても確認されました。

第2号議案では、令和7年度の決算報告並びに監査報告が行われました。会費収入や各事業に係る支出、次年度への繰越額などについて説明があり、監査の結果、関係帳簿や証拠書類等が適正に処理されていることが報告。第1号議案と第2号議案は一括して審議され、承認されました。

第3号議案では、令和8年度の実業計画案について説明。令和8年度も、定期総会、各種研修会、研究活動、事務職員会ニュースの発行、ホームページの管理、支部活動などを継続して実施していくことが示されました。あわせて、会員相互の情報共有や資質向上につながる活動を進めていく方針が確認されました。

第4号議案では、令和8年度の予算案について説明がありました。各事業を実施するための経費や、部局・支部活動に係る予算の内容が示されました。また、新たな活動に対応するための費用についても説明があり、今後の事業計画を支える予算として審議されました。第3号議案と第4号議案も一括して審議され、承認されました。



— 令和8年度役員 —

会長	旭農業高校	小野寺事務長
副会長	幕張総合高校	佐藤事務主幹
副会長	木更津高校	金木事務長
副会長	船橋二和高校	田辺事務長
副会長	安房拓心高校	渡邊事務長
監事	磯辺高校	岩崎副主幹
監事	成田国際高校	郡司事務主幹

第5号議案では、令和8年度の役員選出について審議が行われました。会則に基づき、役員候補者について説明があり、新たな役員体制が承認されました。

すべての議案について説明と確認が行われ、いずれも**賛成多数により承認**されました。最後に、新役員を代表し小野寺会長から挨拶があり、定期総会は幕を下ろしました。

新会長挨拶

新しく会長に就任いたしました、旭農業高校の小野寺と申します。皆様の御理解と御支援、御協力をいただきながら、さまざまな活動に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

あとがき

研修会や定期総会には、制度や業務の確認だけでなく、人とのつながりや新たな気づきが生まれる場面があります。

今回の「定期総会及び研修会」でも、研究発表や特別講演など、多くの学びに触れる機会となりました。

ページをめくるたびに、新しい発見があり、思わず続きを読みたくなる。

情報厚生部一同、そのような誌面づくりを目指しています。この事務職員会ニュースが、日々の業務の中で生まれる学びや気づきを、改めて見つめる時間のひとつとなれば幸いです。

情報厚生部 松戸向陽高校 坪 祐弥